



## 1 未来を拓く人を育む 文化のまち

### (1) 地域文化の継承・発展

#### [現状と課題]

- 合併により、文化、イベント、活動グループ、施設などの資源が豊富になり、文化水準を向上させる機会を得ました。
- 現状では旧来の枠組みで運営・管理されている部分が多いため、それぞれの実績やノウハウが活かされにくく、効率的・効果的な運用も十分とはいえません。
- 地域の慣習なども影響して、文化活動を率先するリーダーなど人材が固定化されがちとなり、リーダーの後継者育成や文化を担う新たな人材育成が進んでいません。

#### [目標]

市内の文化活動にかかわるグループや組織の連携・統合により、活動の質の向上や活動範囲の拡大を進め、文化の水準を高めます。

また、規模・性質の似通った施設については、市民の文化ニーズを踏まえた利用方法により、より多様な活動規模・スタイルに効率よく対応し、市民の文化活動を支えます。

さらに、地域に伝わる伝統・民俗行事や歴史資源などの発掘・評価、情報発信をCATVやインターネットを活用して市民主導で行い、後世へさまざまな方法で伝承するとともに、生涯学習への題材提供、コミュニティの活性化や観光資源への活用など、“生きた文化”にします。



## （2）国際交流の推進

### 【現状と課題】

- 国際化の進展は、インターネット<sup>※</sup>の普及や渡航費用の低下で市民レベルまで広がる中、環境、平和など国際的視野に立った協力・貢献が求められるようになりました。
- 合併により、姉妹都市がアメリカ合衆国の3都市（オリンピア市、ホリスター市、シェラン市）となり、市民にとっての直接交流機会が拡大しました。
- 兵庫教育大学には留学生も多く、これまで学校や市民との交流を重ねてきました。
- 恵まれた環境をさらに活かして、国際感覚を高めていくことが必要となっています。

### 【目標】

姉妹都市のみならず世界各国を対象として、留学生や市内在住の外国人による文化交流、外国の学校との翻訳ボランティアの協力による文通やインターネットを利用した交流など、幅広いスタイルの国際交流をめざします。

また、国際交流協会を中心として、国際理解教育<sup>※</sup>の推進や市民への国際意識の浸透を図りながら、グローバル<sup>※</sup>な視点で考え、活動する市民を増やします。



#### ※インターネット

さまざまなコンピューターネットワーク同士を連結させた、世界規模のコンピューターネットワーク。

#### ※国際理解教育

国際社会の進展に伴い、国際社会の中で日本人としての自覚をもち、主体的に生きていくうえで必要な資質や能力を養うことをねらいとした教育活動。自国の文化・異文化の理解、人間理解の深化やコミュニケーション能力の育成などを行う。

#### ※グローバル

「地球規模の」「球状の」などを表す英語。「国境を越えて地球全体にかかわるさま」を表し、「世界的規模の」という意味でも使われる。

### (3) 学校教育の充実

#### [現状と課題]

- いじめや不登校問題の発生など、子どもを取り巻く社会的・教育的環境は大きく変化しています。
- 子どもたちの自然体験、社会体験の機会が少なくなっています。豊かな心の成長のため、体験活動を通じた心の教育が求められています。
- 地域社会が一体となって、子どもたちを育むシステムを構築することが強く求められています。

#### [目標]

子どもたちが個性や能力を活かし、豊かな心、自ら学ぶ意欲、たくましく生きる力を身につけるよう、家庭や地域と学校が連携して、総合的な教育力を高めます。

また、子どもたちの基礎学力を高めるため、質の高い教育を展開し、さらなる学習環境の整備を進めます。特に本市に立地する兵庫教育大学が有する資源は、地域の子どもと大人をつなぐ役割を担うことが期待されます。学校と地域における連携の一層の推進方法を考え、子どもと大人、地域と学校が共に学べる環境づくりをめざします。



#### （4）生涯学習の充実

##### 【現状と課題】

- 人々の自己実現に対する関心が高まり、市民生活をより豊かにする学習や文化活動などへのニーズに結びついています。
- 有形無形の文化財や文化を育む施設が充実しており、また、高齢者や女性など生涯学習<sup>※</sup>を指導する人材が豊富です。
- 恵まれた学習条件を活かし、生涯学習の環境をより充実することが必要です。

※生涯学習  
人が生涯にわたり学  
び・学習の活動を続け  
ていくこと。

##### 【目標】

市民が、いつでも、どこでも、誰でも自発的に学習・文化活動ができる環境として、初心者でも気軽に仲間入りできる参加しやすい仕組みづくり、市民同士で広め合い・教え合う仕組みづくりを、女性や高齢者を中心としたリーダーシップなどにより全市に広めます。

また、生涯学習の成果として学んだことを披露し、さらに社会に還元できる機会づくり、地域の活性化や広域的な集客を誘引する仕組みを検討し実践することで、市民の参加意欲を喚起します。



## (5) スポーツ・レクリエーションの推進

### [現状と課題]

- 自由時間の増大や健康志向の高まり、仲間とのふれあいの機会を求め、年齢や体力などに応じたさまざまなスポーツ・レクリエーションを楽しむ市民が増えています。

### [目標]

寝たきりゼロや健康度アップなど、目標をもった継続性のある体力の向上や健康づくりに取り組みます。

また、スポーツ大会など交流機会の充実や情報の提供、指導者・ボランティアの育成などに努め、市民のスポーツ活動の振興を図ります。

さらに、公園など身近な施設から本格的な施設に至るスポーツ施設の有効活用を図るとともに、市民に便利で使いやすい施設となるように努めます。

このようにして、子どもから高齢者までのすべての市民が、日常生活の中で気軽にスポーツ・レクリエーションに親しめる環境づくりをめざします。



## （6）青少年の育成

### 【現状と課題】

- 価値観の多様化などによる自分本位や無責任の風潮、社会全般の規範意識<sup>※</sup>（モラル）の低下、家庭や地域社会における教育力の低下などを背景として、今日の子どもたちは、凶悪事件や薬物の乱用、いじめ・校内暴力、性をめぐる問題など、憂慮すべき状況に直面しています。

### 【目標】

子どもたち一人ひとりが豊かな人間性や社会性を育めるよう、あいさつ運動など平日頃の取り組み、家庭教育の支援や青少年活動団体への支援、指導者の養成などさまざまな側面からの取り組みを進めます。

また、家庭、学校、地域、事業者、行政が連携して、多様な参加・体験機会を提供することで、地域社会の一員としての自覚を促すとともに、郷土愛を醸成し、地域に根ざした暮らしにあこがれる子どもたちを増やします。

#### ※規範意識

道徳、倫理、法律などの社会のルールを守るようとする意識のこと。



## 2 人と自然が調和した 安全なまち

### (1) 豊かな自然の保全・活用

#### [現状と課題]

- 市域の一部は県立自然公園に指定され、加古川、東条湖、三草山をはじめ、野鳥・生物などの自然資源が豊富です。
- 自然を生かした播磨中央公園、やしらの森公園などが整備されています。
- 自然志向が強まる中、これらの資源を財産として次世代に引き継ぐため、山や川、里山やため池などについて、市民参画による自然環境保全の取り組みが大切です。

#### [目標]

自然資源を再認識し、市民の健康づくりやふれあいと憩いの場、遊び場、災害時の避難地となる既設の公園・緑地の有効活用を進めるとともに、より身近な公園・緑地の整備充実を図り、うるおいのあるまちづくりを進めます。

また、自然環境の保全と安全なまちづくりのため、河川やため池などの整備と適切な維持管理を促進します。

さらに、市民意識の高揚と自主的な地域ぐるみ活動により、豊かな自然環境の活用と創造を図り、自然の恵みの中で安全に住み続けられる環境づくりを進めます。



## (2) 環境にやさしい暮らしづくり

### [現状と課題]

- 地球温暖化<sup>※</sup>への対応や環境負荷<sup>※</sup>の軽減による持続可能な社会への移行は、国際的にも重要な課題となっています。
- 市民の環境への意識が十分に浸透していない感もあり、環境への関心をより高めつつ、市民参画による取り組みに結びつけていくことが大切です。

### [目標]

地球全体の環境保全への対策として、バイオマス<sup>※</sup>燃料の利用や低公害車<sup>※</sup>の導入など、自然エネルギーの研究と利用普及を促進するとともに、環境教育の推進などにより、市民や事業者の環境問題への認識を高めます。

また、市民のクリーン作戦などによるまちの美化や不法投棄の防止をはじめ、水質汚濁などの公害防止、ごみの減量化・再資源化を推進します。

さらに、古紙などのリサイクル、台所ごみなどの堆肥化<sup>※</sup>、農薬使用の抑制などの環境負荷の軽減に努め、限りある資源の有効利用や循環型社会<sup>※</sup>の形成など、良好な環境づくりを推進します。



#### ※地球温暖化

地球表面の大気や海洋の平均温度が長期的にみて上昇する現象。

#### ※環境負荷

人が環境に与える負担のこと。単独では環境への悪影響を及ぼさないが、集積することで悪影響を及ぼすものも含む。

#### ※バイオマス

もともと生物(bio)の量(mass)のことであるが、今日では再生可能な、生物由来の有機性エネルギーや資源(石油や石炭などの化石燃料は除く)をいうことが多い。エネルギーになるバイオマスの種類としては、木材、海藻、生ごみ、紙、動物の死骸・糞尿、プランクトンなどの有機物がある。

#### ※低公害車

騒音の発生や大気汚染物質の排出が少ない自動車の総称で、電気、太陽光などを動力源とする自動車の研究・開発が行われている。

#### ※堆肥化

有機質を微生物の作用により好気性条件下で分解し、発酵分解に伴う発熱によって有害細菌を死滅させることで、衛生的で安全なものに変換して肥料にすること。

#### ※循環型社会

廃棄物などのごみをなるべく出さないように、有用なものは資源として再利用、再生するとともに、限りある天然資源の消費をできるだけ抑えて、環境への負担を少なくする社会。

※アクセス道路  
都市の施設などに至る  
ための道路。

### (3)交通安全・防火体制の充実

#### [現状と課題]

- 中国自動車道のインターチェンジが2つあり、幹線道路も通っているため、通過交通を含めた自動車交通量が多い状況です。
- 基幹道路網の整備は進められていますが、幹線道路へのアクセス道路<sup>※</sup>や生活道路の幅員が狭く、歩道がない道路も多い状況です。
- 交通安全施設の整備や交通安全啓発活動、児童・高齢者などに対する交通安全教室の開催など、交通安全対策に努めています。
- 消防活動などは、地域のつながりとしての活動が行われており、さらに市民の防火意識を高め、地域全体で安全な暮らしへの環境づくりを進めていく必要があります。

#### [目標]

安全性の確保がより必要とされる道路などの早期整備に努め、関係機関・団体、地域社会、行政が一体・連携のもとに交通安全活動に取り組みます。

また、市民の防火意識の一層の高揚をはじめ、火災予防対策の推進、消防施設や消防車両の整備充実など消防力の強化を図るとともに、消防団をはじめとする地域に根ざした消防・救急救助体制の確立に努めます。



#### (4) 災害に強いまちづくり

##### [現状と課題]

- 震災や台風災害の貴重な教訓を活かし、災害から市民の生活を守ることが求められています。
- 地域のつながりとして、「助け合い」の意識も強く、自主防災組織が形成されています。
- 緊急車両が進入できる道路や防災拠点、災害時の情報伝達の仕組みなどを整備充実していく必要があります。
- 防災訓練の実施などを進めていますが、さらに防災組織体制の強化が必要です。
- 防災マップや災害時の避難所を知らない人もある中、自主防災意識が災害時に機能するように育てていくことが必要です。

##### [目標]

“備えあれば憂いなし”を合い言葉に、災害に強く、人にやさしいまちをめざし、市民の生命と財産を守るため、建物の耐震化を促進しながら都市基盤の整備を進めます。

また、避難所、避難路の確保やライフライン<sup>※</sup>の防災性の向上により、防災拠点施設や情報通信システムを充実し、防災体制の確立に努め、まちの防災力を強化します。あわせて、防災意識の高揚と普及啓発に努め、市民一人ひとりが、“自分の命は自分で守る”、“地域を自分たちで守る”という意識をもち、自主防災体制を強化します。

さらに、あたたかいコミュニティを構築していく努力を普段から重ね、高齢者や障害のある人などの災害時要援護者に手や心が届く地域社会づくりを進めます。

※**ライフライン**  
電気、水道、ガス、電話など日常生活に不可欠な線や管で結ばれたシステムの総称。



※かとう安全安心  
ネット

災害警戒情報、避難情報、防犯情報や気象情報などの緊急情報を携帯電話のメールでお知らせするサービス。平常時は、かとう安全安心ネットのホームページに防災や防犯啓発情報などを掲載している。

## (5)防犯体制の強化

## 【現状と課題】

- 市内の通学路には街灯や防犯灯がない所があり、防犯設備が十分ではない状況にありますが、CATV、かとう安全安心ネット<sup>※</sup>などの情報網などは整備されています。
- 防犯パトロールなど、地域住民によるまちづくり防犯グループ、子ども見守り隊の活動などがありますが、その活動内容に違いがあり、市民の防犯意識の弱さもみうけられます。
- 複雑・多様化する消費者問題に対しては、被害者の救済や予防に努めていますが、その対策は十分とはいえない状況です。

## 【目標】

歩道などへの街灯や防犯灯の設置を一層進めるとともに、情報網を活用し、犯罪・防犯の情報をいち早く市民に知らせる体制づくりなど、防犯機能の充実に努めます。

一方、“自分たちのまちは自分たちの手で守る”という意識づくりにより、防犯意識の向上を図るとともに、市民の連帯意識により、地域のコミュニティを一層深め、防犯パトロールなど地域住民による防犯活動の推進・強化に努めます。

さらに不審者対策などをはじめ、関係機関・団体、地域社会が連携して、犯罪を未然に防ぐ明るい地域社会づくりをめざします。

また、消費者ニーズに適應した情報の提供、相談、啓発などの充実に努め、消費者被害の未然防止と適切な助言などに努め、安全で安心して暮らせる消費者対策を進めます。





### 3 健やかで心がふれあう やさしいまち

#### (1) 子育て支援の充実

##### [現状と課題]

- 「少子化」「核家族化」「働く女性の増加」などを背景として、安心して子どもを産み育てる環境整備や保育内容・アフタースクール<sup>※</sup>の充実、保育時間の延長など、時代に合った子育て支援策が必要です。
- 子育て支援組織や受け入れ施設の整備が進んでいるものの、障害児を受け入れる体制は十分ではないなど、保育需要の変化に即した保育所のあり方を検討する必要があります。

##### [目標]

少子化、核家族化など子どもを取り巻く環境の変化に対応するため、あたたかい人間関係の中で、子どもを安心して産み育てることができる環境づくりや子どもの発育・発達に応じた健康づくりの支援を充実します。

また、子育てにかかわる当事者の声を聴き、家庭、地域、学校、専門機関、行政が連携して、関連施設の充実や経済的支援とともに精神面でのサポートの充実を進めます。

さらに、子どもの成長、発達段階に応じ、継続的で多様な保育サービスの充実や障害児受け入れ体制の充実、市民相互の子育てネットワーク<sup>※</sup>の形成など、きめ細やかな施策の展開を図ります。



※アフタースクール  
放課後に保育に欠ける児童を、保護者に代わり預かる制度で、放課後児童健全育成事業をいう。

※子育て  
ネットワーク  
子育てに関係している団体や機関が集まり、講演会やアドバイザー養成講座などさまざまな活動や各種情報交換を行い、子育てを支援する取り組みをいう。

## (2)健康づくりの充実

### [現状と課題]

- 誰もがいつまでもいきいきと暮らすことができる生涯を通しての健康づくりのため、保健・医療・福祉や各分野の連携を図ることが重要です。
- 現代社会におけるストレスの軽減や心の健康を保つため、心の健康づくりが必要であるとともに、健康づくりに向けた健康教育や相談、定期的な市民の健康診断の実施など、健康づくりや疾病予防の充実が大切です。
- CATV回線を利用した在宅健康支援<sup>※</sup>などによる健康増進の取り組みを全市へ広めていくことが必要です。

### [目標]

一人ひとりの健康への意識を高め、主体的な健康づくりに取り組み、健康的な生活習慣の確立や身近なスポーツ・レクリエーション活動などを通して、心と体の健康づくり、体力づくりを推進します。

また、家庭、地域ぐるみの各種団体、事業者、学校、スポーツクラブなどと連携しながら、各団体などの実状にあわせ、誰でも健康づくりに参加できる体制づくりに取り組みます。

さらに、医療機関などと連携した専門家などによる健康管理に関する指導の充実、地域ごとに健康づくり推進リーダーの養成を図り、CATVなどの既存システムを活用しながら健康増進活動を進めます。

#### ※在宅健康支援

家庭で健康管理端末を利用して、血圧や心電図などの健康データ、問診結果などを計測・入力し、電話回線やインターネットを利用して、自治体・医療機関・サービス事業者などの健康管理を行うセンターに送信することにより、利用者の健康管理を支援するもの。



### （3）高齢者保健福祉の充実

#### 【現状と課題】

- 高齢社会が進む中で、介護予防は高齢者の重要な課題となっています。
- 一人ひとりの健康状態に応じた生活習慣病予防と介護予防を一体的に推進し、さらに、介護保険サービス<sup>※</sup>を含めた地域資源を有効に活用するなど、高齢者が地域社会で自立できる環境づくりを進める必要があります。

#### 【目標】

高齢者関連の施設や設備の整備充実を図るとともに、バリアフリー<sup>※</sup>化を推進し、在宅での介護、自立の支援を進めます。

また、サービス内容や仕組みなどを市民にわかりやすく知らせる工夫を行うとともに、在宅介護サービス<sup>※</sup>の充実や寝たきり・認知症にならないための予防、介護保険や支援制度の充実に努めます。

さらに、地域での助け合いや高齢者の社会参加と自立した生活を支援するための取り組みを推進するとともに、高齢者がいきいきと暮らせるために、高齢者が気軽に相談できる窓口や集まる場の拡大、世代間交流の促進、高齢者の働く場の確保などの取り組みを進めます。

#### ※介護保険サービス

要支援、要介護状態と認定した高齢者に対して提供する保険給付で、訪問サービス、通所サービス、短期入所サービス、福祉用具貸与、介護保険施設サービスなどがある。

#### ※バリアフリー

障害のある人が社会生活をしていくうえでの障壁を取り除くこと。段差など物理面の障壁に限らず、社会参加を困難にする社会的、制度的、心理的な障壁の除去を含む。

#### ※在宅介護サービス

介護を必要とする高齢者や障害のある人に対する介護サービスのことで、家庭を訪問して介護を行う訪問サービスや、デイサービスセンターなどに通い、日常生活上の世話、機能訓練を行う通所サービスなどがある。



#### (4) 障害者・要援護者福祉の充実

##### [現状と課題]

- 地域生活を支えるために、行政を中心に各専門機関との連携の強化に努め、障害のある人の多様なニーズに対応することが必要です。
- 建築物、道路、交通などにおける障壁を取り除き、安全・安心で生活に支障のない環境を整備・充実するとともに、雇用機会の拡大など、障害のある人の働く場を確保することが必要です。
- 雇用環境の悪化に伴う失業者の増加や無年金者の増加などにより、本市の生活保護世帯数は増加傾向にあります。

##### [目標]

すべての人が自分らしく安心して生活ができるように、ノーマライゼーション<sup>\*</sup>の理念をもとにした自助、共助、公助のバランスのとれた人にやさしいまちづくりを進めます。

また、家族や地域との連携をはじめ、地域での助け合いを進め、障害のある人などの社会参加と自立した生活を支援するための取り組みを推進するとともに、バリアフリー化を推進します。

さらに、保健、医療、教育、労働などの分野との連携を強化し、在宅サービスや施設サービスの充実、雇用の促進など、総合的、体系的に施策展開し、障害のある人やひとり親家庭、要援護者が生きがいや目標をもって暮らせる環境づくりを進めます。

##### ※ノーマライゼーション

高齢者や障害のある人など社会的な弱者が、社会の中で他の人々と同じように生活し、活動することが社会の本来あるべき姿であるという考え方。



## （5）医療の充実

### 【現状と課題】

- 市内には医療機関が多く立地していますが、公立社総合病院は、市の財政をひっ迫させる要因となっていることから、病院経営の改善が不可欠な状況です。
- 公立病院は常勤医師の不足などにより、休診となる診療科が発生するなど安定した医療体制の維持が困難な状況となっています。
- 社総合病院は地域に密着した病院としての役割も大きく、開業医を含めた医療サービスの配置を踏まえた検討を行い、経営改善を図りながら、地域の基幹病院としての医療サービスを提供する必要があります。
- 後期高齢者医療制度<sup>※</sup>は、各自治体が窓口事務を行いますが、対象者の声が届くよう、従来のようなきめ細やかな対応が必要です。

### 【目標】

乳幼児期から老年期に至る各世代における疾病の早期発見、早期治療のできる環境づくりを進めるため、家庭・学校・職場と医師会、歯科医師会や医療機関などとの連携のもとに、地域医療の充実に努めます。

また、救急医療の充実にも努め、医師の確保をはじめ、公立社総合病院の経営の安定化を図りながら、地域ニーズにあわせた施設・医療設備の整備や地域医療体制、ネットワークの充実に努めます。

さらに、後期高齢者医療制度など医療保険制度の周知・啓発を進めるとともに、将来にわたって安定的に運営できる環境の充実に努めます。

### ※後期高齢者医療制度

75歳以上の「後期高齢者」全員が加入する公的医療保険制度。2008年度から新たな独立型の健康保険としてスタート。



### (6) 地域保健・地域福祉の推進

#### [現状と課題]

- みんなで声かけ運動、幅広いボランティア活動、小さい地域単位の集いの場の活性化など、市民同士のコミュニケーションを図るため、地域住民や社会福祉協議会などの関係団体と行政が、役割分担と連携を一層進める必要があります。
- 地域福祉推進の主体である地域住民の参加を得て、小地域福祉活動<sup>※</sup>などの取り組みやボランティアを通して、人材育成や情報発信をはじめとするさまざまな活動に関する適切なコーディネート機能を高める必要があります。

※小地域福祉活動  
日常生活圏域の小地域において、住民間の交流や助け合いなどによる「つながり」ができる仕組みづくりを住民主体により行う活動。

#### [目標]

保健・医療・福祉・教育機関の連携により、きめ細やかで総合的な支援体制の整備など、健やかで心豊かに暮らせる環境づくりを進めます。

また、地域で総合的な生活支援サービスを提供できる体制を整備するため、地域福祉計画を市民参画のもとに策定します。

さらに、多様化した生活課題に対応できるサービスを構築する中、地域の特性を生かした安心できる地域づくりに向けて、地域における福祉活動を推進します。

また、推進の原動力となる人材発掘や育成のため、市民のボランティア活動への関心の高揚と参画促進を図り、各ボランティア活動を連携・調整する体制づくりを推進します。



## 4 魅力ある資源を活かした 誇りのもてるまち



### (1) 農業の高度化

#### [現状と課題]

- 酒米として全国に知られる山田錦をはじめとする水稻栽培を中心とした農業を展開しています。
- 農業従事者の高齢化や後継者不足への対策、米の生産調整の強化などに伴う農家数の減少や休耕田<sup>※</sup>・耕作放棄地の増加への対策が必要となっています。

#### [目標]

集落営農<sup>※</sup>や認定農業者<sup>※</sup>への農業集約による農業経営の効率化を図るとともに、若い世代を中心とした農業の担い手の育成をはじめ、高齢者や女性など多様な担い手の確保、農業施設の整備などにより、農業経営基盤の確立をめざします。

また、農業がもつ自然環境の保全や都市との交流などの多面的機能の維持・活用を図るため、観光施設などと連携した市民農園<sup>※</sup>や貸し農園などを推進し、あわせて地域ブランドを確立しながら農業の高付加価値化を図ります。

さらに、休耕田を活用した転作作物により、地産地消や生・消交流の取り組みを進め、「農」を通じた地域の活性化をめざします。



#### ※休耕田

稲作を休止している水田のこと。

#### ※集落営農

集落など地縁的にまとまりのある一定の地域内の農家が農業生産を共同で行う営農活動。

#### ※認定農業者

農業経営基盤強化促進法により、都道府県が作成した基本方針、市町村の農業経営基盤強化のための基本構想に基づく「農業経営改善計画」を市町村に提出し、認定を受けた農業者（法人を含む。）をいう。

#### ※市民農園

都市の住民がレクリエーション、自家消費用野菜・花の生産、高齢者の生きがいづくりなどの多様な目的で、小面積の農地を利用して野菜や花を育てるための農園。

※公益的機能

森林の機能のうち、水源かん養機能、山地災害防止機能、生活環境保全機能、保健文化機能をいう。

## (2) 森林の保全・活用

### [現状と課題]

- 森林は、生態系保全、環境形成機能、保健・レクリエーション機能など多面的な機能をもっており、市民の生活とも深くかかわりをもっています。
- 市域の約50%を森林が占めていますが、森林に対する市民の関心は低く、手入れが行き届かないため、森林の荒廃による水源のかん養などの公益的機能<sup>※</sup>の低下が懸念されています。

### [目標]

森林のもつ機能や重要性について理解を深め、環境や防災の観点から地域が一体となった森林の保全と活用を進め、本市の魅力資源の一つとしての再生に努めます。

また、森林に対する市民の理解促進や森林文化の情報発信などにより、子どもたちの自然体験学習の場や情操教育、市民の癒しの場としての保全・活用を図ります。



### （3）地域産業の活性化

#### 【現状と課題】

- 釣り針や鯉のぼり、雛人形など江戸時代末期から明治にかけて始められた多くの伝統地場産業や山田錦、桃、ぶどうなどの特産品がありますが、“加東市の特産品”としての情報発信が十分とはいえない状況にあります。
- 地元の商店街は、近隣の大型店舗の進出などにより、売り上げや客数が減少する傾向にあります。

#### 【目標】

個人や事業者、団体、商店などが協働し、加東市の特産品のPRや販売促進に向けた取り組みをめざします。

また、グループや個人などがJA<sup>※</sup>や農業改良普及センター<sup>※</sup>などと協力し合い、地元の材料を使った加東市らしい新たな特産品の発掘や開発への取り組みを進めるとともに、市内外に情報発信することで、加東市全体の統一イメージを創出し、「加東ブランド」の確立をめざします。

あわせて、JAや商工会などとの連携や運営補助を通して、市全体の地域産業の活性化と振興を図ります。

※JA  
農業協同組合の略称。

#### ※農業改良普及センター

都道府県が改良普及員の活動拠点として設置し、改良普及員相互の連絡調整、農業者に対する情報提供、新規就農促進のための情報の提供・相談などを実施する機関。



#### (4) 新産業の創出

##### [現状と課題]

- ひょうご東条ニュータウンインターパークでは、中国自動車道インターチェンジの玄関口という立地条件や職住の融合という条件を生かし、企業の誘致を進めています。
- インターネットを利用したビジネスや地域の課題を市民がビジネスとして解決していくコミュニティビジネスなどにより、起業をめざす人が増えてきています。

##### [目標]

ひょうご東条ニュータウンインターパークや滝野工業団地などの恵まれた立地・交通条件を生かし、時代に即応した魅力ある企業の誘致を進め、雇用の安定と地域の活性化を図ります。

また、コミュニティビジネスを志す人や起業を考える人に向けた起業講座や研修などを開催するとともに、空き店舗や既存施設を活用した起業支援の仕組みづくりや情報提供の場の充実を検討し、新産業の創出による若者のUJIターン<sup>※</sup>を促進しながら、活気があふれるまちをめざします。

##### ※UJIターン

Uターンは、郷里に戻って就職すること。Jターンは、郷里まで戻らず途中の地方に住居を移すこと。Iターンは、郷里以外の地方へ住居を移すこと。これらをまとめてUJIターンという。



### （5）観光産業の活性化

#### 【現状と課題】

- 播磨中央公園や東条湖、清水寺、温泉施設やゴルフ場など多くの来訪者を惹きつける観光資源を多く有しています。
- 観光資源の活用については、市域全体の周遊的な観光ルートにはなっておらず、市内外に向けてのPRも十分でない状況にあります。

#### 【目標】

恵まれた地域資源を活かし、既存の観光施設などとの連携により、文化や産業と結びついた観光資源のネットワーク化を図るとともに、癒しや体験、学習といった新しい観点を加味しながら、加東市内で「1日を楽しく過ごせる」「滞在を楽しめる」回遊性のある観光産業を推進し、市内外への情報発信を行います。

また、家族連れや高齢者など、多様な世代が多様な目的で楽しめる観光プランの提案、地域の伝統行事やイベントの市内外へのPRなど、市民のアイデアを取り入れた観光産業の活性化を図り、加東市の元気の源を創出します。



## ※テレワーク

情報通信技術を利用して、オフィス勤務の場合のように時間・場所など条件にとらわれずに、オフィス以外の場所で勤務する就業形態。

## (6)雇用対策の充実

## [現状と課題]

- 雇用情勢はやや回復の兆しがあるものの、正社員雇用からパートや派遣社員へのシフトなど、企業の求人ニーズに変化があり、若年層を中心に厳しい雇用状況が続いています。
- テレワーク<sup>※</sup>など、インターネットを使った新たなビジネスを志す気運も芽生えつつあります。

## [目標]

雇用情報の提供や起業支援の取り組みなどを通して、若者を中心としたUターンを促進するとともに、女性や中高年、高齢者などの働く意欲が地域の活性化につながるまちづくりをめざします。

また、すべての勤労者が能力を十分に発揮し、生きがいをもって働くことができるような労働環境の整備や勤労者福祉の充実など、雇用条件の充実に取り組みます。



## 5 暮らしと憩いが響きあう 心地よいまち



### (1) まち並みづくり

#### [現状と課題]

- 豊かな緑や川、田園風景を中心としたまち並みを形成し、永く歴史をたどった古いまち並みが残されており、その中で、先人たちの培ってきた暮らしの営みの蓄積として、小学校区や集落単位によるまちづくりが進められています。
- のどかな田園風景の中には、さまざまな色彩の新しい建物が建つなど、全体としての調和がくずされていく傾向もみうけられますが、一方で、市民参加による植樹や植栽管理などが行われており、市民が自らのまちを自らの手で美しくしようとする意識が育ちつつあります。

#### [目標]

市民一人ひとりが「良好な景観は現在と将来における市民共有の資産である」という共通認識のもと、秩序ある土地利用の推進に努めるとともに、既存の施設や休耕田を活用した市民による住環境の創造などにより、イベントや四季折々の景観づくりといったまち並み整備を市民主体のもとに推進します。

行政は、このような取り組みについて、市民の意見を反映する仕組みづくりを行うとともに、さまざまな支援を行います。



※土地区画  
整理事業

土地区画整理法により、都市計画区域内で、土地の区画形質の変更をしたり、道路や公園など公共施設の新設や変更を行う事業のこと。

## (2) 良好な住環境づくり

### [現状と課題]

- 土地区画整理事業<sup>※</sup>や公営住宅の整備・改修をはじめ、豊かな緑や田園風景の中で暮らすことのできる住環境を生かした取り組みを進めています。

### [目標]

ひょうご東条ニュータウンインターパークなどの良好な住宅整備基盤を生かし、融資制度などを活用した持ち家取得の促進や中高年層、若年層の定着化を図るための住環境整備を図ります。

また、高齢化の進展やライフスタイルの多様化などの社会的背景に対応しながら、公営住宅のバリアフリー化や老朽化への対応を進めます。

さらに、昔ながらの習慣や行事を継承していくことができる住宅モデルプランづくりなど、市民と行政が一体となった取り組みにより、多世代が快適に暮らすことのできる良好な住環境整備をめざします。



### （3）ユニバーサル社会づくり

#### 【現状と課題】

- すべての市民が安全で快適に暮らし、自由に社会参加ができるユニバーサル社会<sup>※</sup>の実現が求められています。
- ハートビル法と交通バリアフリー法が一体となった「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律<sup>※</sup>」が施行され、各自治体で交通バリアフリー基本構想を策定する動きもみられます。
- 道路や施設のバリアフリー化、障害のある人などへの社会活動支援などを総合的に推進するユニバーサル社会づくり実践モデルの市として、市民参画による計画づくりに取り組んでいます。

#### 【目標】

公共施設や交通機関など市民の生活に関連する施設について、市民参画による現地調査や検討会などでの議論を踏まえながら施設の整備や改修を進め、高齢者や障害のある人をはじめ、妊産婦や外国人などすべての人にとって使いやすく、移動しやすいバリアーのないまちづくりを進めます。

さらに、他人には思いやりをもって接するなど、市民一人ひとりの社会を支える意識の醸成を図り、心のバリアーのない社会づくりをめざします。

#### ※ユニバーサル社会

年齢や性別、文化の違いにかかわらず、誰もが安心して暮らせる社会。

#### ※高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律

高齢者、障害のある人などの円滑な移動と建築物などの施設の円滑な利用の確保に関する施策を総合的に推進するため、基本方針などの策定のほか、市町村が定める重点整備地区において、高齢者、障害のある人などの計画段階からの参加を得て、旅客施設、建築物やこれらの経路の一体的整備を推進するための措置を定めた法律。



#### (4) 情報通信サービスの充実

##### [現状と課題]

- 近年、情報通信技術は急速に進歩しており、時間や場所を越えた高度なネットワーク社会が構築されつつあります。
- 先進的にCATV事業に取り組み、地域に密着した番組制作を行っており、市民にとって重要な暮らしの情報源になっています。

##### [目標]

情報通信サービスの高度化として、双方向への取り組みなどを推進し、防災・防犯情報など、市民の日々の暮らしにかかわるさまざまな行政情報を速やかに提供するとともに、市民の声を拾い上げる仕組みづくりへの活用を努めます。

市民は、行政情報を入手するほか、地域コミュニケーションの活性化や地域の一体感を具体化する有効な手段として、CATVの積極的な活用を行います。

このように、年齢や地域などによる情報格差のない“いつでも、どこでも、誰でも”利用できる情報ネットワークを活用した豊かで快適な市民生活を送ることができるまちづくりをめざします。



### （5）道路環境・ネットワークの充実

#### 【現状と課題】

- 東西に中国自動車道と国道372号、南北に国道175号が走り、阪神間や播磨臨海部を結んでいます。
- 道路は単に交通機能だけでなく、災害時の避難路、救援路として、多様な役割を担っています。
- 市内の幹線道路については整備が進められていますが、未整備地区や狭隘道路<sup>※</sup>、線形の急な道路も残っています。

#### 【目標】

地域間の交流や広域的交流を活性化し、市民の円滑移動と安全を確保するため、国道、県道、市道など、それぞれの機能分担と各道路の連携性を考慮した市内の全体的な計画を基本として、通勤や通学、その他地域の安全対策を踏まえた人にやさしい道路環境・ネットワークの充実を図ります。

※狭隘道路  
面積や幅が狭い道路のこと。緊急車両などの通過・離合が困難である。



※需給調整規制

事業参入にあたっての行政の判断基準として、「需要と供給の関係を判断し、供給が多すぎると判断される場合に新規参入を認めない」という規制の1形態である。

※交通空白地域

鉄道駅より一定距離(例えば750m)以遠であり、バス停より一定距離(例えば300m)以遠の地域。

※交通弱者

自動車中心社会において、移動を制約される人。高齢者、子ども、障害のある人をいう。

(6)公共交通機関などの整備

[現状と課題]

- 広域的な交通手段として、中国自動車道を走るハイウェイバスとJR加古川線があり、地域内の主要な移動手段として路線バスがあります。
- 近年、路線バス事業の需給調整規制<sup>※</sup>の廃止により、参入、撤退が自由になり、不採算路線からの撤退や減便がしやすくなったため、今後拡大が予想される交通空白地域<sup>※</sup>の解消への対応が求められています。
- 近隣市町においても、自治体運営による公共交通の運行が実施されています。

[目標]

市民同士の交流促進や交通弱者<sup>※</sup>の移動手段を確保するため、民間事業者との連携や財政的観点に留意して、市民参画のもとに公共交通のあり方や将来を見据えた継続性のある総合的な交通システムの検討を行います。



### （7）ライフラインなどの充実

#### 【現状と課題】

- 上下水道の整備や水質の保全に努めています。
- 応能・応益の原則<sup>※</sup>により、市民負担のあり方を検討し、事業経営の健全化を進める必要があります。

#### 【目標】

上水道については、老朽化した配管設備や施設の改修など適正な維持管理を行い、安全・安心でおいしい水の安定供給に努めます。下水道については、全戸水洗化に向けた取り組みを進め、生活環境の向上を図るとともに、事業経営の健全化をめざします。

また、水資源が有限であることの認識をもち、水の有効利用に努めます。

#### ※応能・応益の原則

応能原則とは、納税義務者の経済的能力に相応した課税がなされるべきであるとする考え方。応益原則とは、国や地方自治体の提供する行政サービスの受益の大きさに応じて税負担をすべきであるという考え方。





## 6 多様なきずなが織りなす 協働のまち

### (1) 人権教育・啓発の充実

#### [現状と課題]

- 21世紀は「人権の世紀」といわれ、人権尊重の流れは今後ますます大きくなるものと考えられます。
- 出身地、職業をはじめ、性別、年齢、国籍、障害のある人などに対する偏見や差別など、基本的人権を侵害するさまざまな問題があります。
- 市民一人ひとりが安心して幸せに暮らすためには、何よりもすべての人の人権が尊重されなければなりません。

#### [目標]

地域でのつながりを大切にしながら、学校、家庭、地域の場などを通じて、さまざまな人権問題に対する市民一人ひとりの理解が深まるよう人権教育や人権啓発を推進します。

また、男性も女性もお互いに理解し合い、固定的な役割分担意識にとらわれず、既存の制度や慣行を男女共同参画の視点に立って見直すなどの意識改革を図ります。

さらに、まちづくりにおける計画段階からの女性の参画の拡大や働く場における男女の均等な機会や待遇の確保の促進、あらゆる暴力の根絶に向けた環境づくりに努めます。

このようにして、すべての人が共に生きる人権尊重社会の構築をめざします。



## （2）コミュニティづくり

### 【現状と課題】

- ライフスタイルの変化や価値観の多様化が、コミュニティにおける連帯意識や人間関係の希薄化に拍車をかけています。
- 少子高齢化が進行する中、災害時はもとより、日常生活においても地域で普段から顔の見える人間関係を保つことが、市民生活にやすらぎをもたらすことを近年の多くの事象から学んでいます。

### 【目標】

コミュニティに関する情報の提供や相互のネットワーク化による情報交流の促進のほか、活動拠点となる集会施設などの運営支援、地域の課題に対する市民自らの活動への支援などにより、新時代のコミュニティの形成をめざします。



### (3) 市民主体・自立のまちづくり

#### [現状と課題]

- 近年の地方自治には、成熟社会、地方分権社会への対応が問われており、まちづくりのさまざまな分野において、市民の主体的な参画が必要となっています。
- 市民の主体的な活動が、さまざまな分野で展開されていますが、今後はテーマや地域に即して、市民、事業者、行政が一体となり、市民主体の自立したまちづくりを一層進める必要があります。

#### [目標]

全市的なテーマごとのまちづくりについては、市民参加のシステムを充実し、地域ごとのまちづくりについては、地域と行政が連携をもち、これまでの自治会活動を主体として、「住民自治組織」の創設などにより、地域の課題を自らが解決する仕組みづくりを進めます。

あわせて、行政の広報・広聴体制の充実や、CATVを活用した市民活動に役立つ情報の公開を推進し、市民から見てわかりやすく、市政へ参加しやすい仕組みにするなど、市民主体の自立したまちづくりを進める環境づくりをめざします。



#### （4）ボランティア活動の促進

##### 【現状と課題】

- 社会基盤は充足しつつありますが、市民生活に対する行政サービスは多様化・高度化が進み、厳しい財政状況の中で、すべての要望に応えることが困難になってきています。
- 市民と行政の新たな協働や役割分担によって、さまざまな課題解決にあたることが求められています。
- 地域づくりの担い手として、ボランティアやNPO<sup>※</sup>の活動があらゆる分野で重要な役割を果たしていくことが期待されています。

##### 【目標】

誰でも気軽にボランティアに参加できるよう、活動の相談や情報提供ができる体制づくりを進めます。

また、団塊の世代や高齢者などを中心としたリーダーの確保・養成を図るための研修事業の実施、事業者などにおけるボランティア活動のための環境整備、団体相互の交流・連携の仕組みづくりなどにより、ボランティア活動が活発なまちをめざします。

※NPO  
Non Profit Organizationの略。市民が主体となって、社会的活動を行っている民間の非営利団体をいう。



※行財政改革大綱  
時代に即した行政需要に的確に対応し、市民サービスのより一層の向上を図るために、組織、制度や行政運営のあり方について見直しを行うとともに、財政運営の適正化・効率化を図っていくことをとりまとめた大綱。

※分権型社会  
国による中央集権型のまちづくりや行政運営から、地方自治体が住民や事業者と連携・協力して、自らの選択と責任により、個性あるまちづくり・政策づくりを行うこと。

※パートナーシップ  
友好的な協力関係。

※PDCAサイクル  
マネジメントサイクルと呼ばれる管理タイプの一つで、計画(Plan)、実行(Do)、点検(Check)、改善(Act)の頭文字をとったもの。

## まちづくりの目標を支える自主自律の行政経営

まちづくりの目標を着実に推進するためには、加東市行財政改革大綱<sup>※</sup>で位置づけた改革の方向性に沿って、加東市を経営していく視点がが必要です。

そのため、行財政改革大綱がめざす改革の基本目標を行政経営の基本方針に位置づけ、自主自律の経営に向けた取り組みを進めます。

### 【加東市行財政改革大綱の基本目標】

- ◆しっかりとした財政基盤の確立
- ◆分権型社会<sup>※</sup>に対応した組織・職員づくり
- ◆市民と行政のパートナーシップ<sup>※</sup>の構築

### (1) 行財政の改革

限られた財源で最大の効果を生み出すため、選択と集中によるメリハリのある政策決定や適切な進行管理(PDCAサイクル<sup>※</sup>の構築)、効率的な実施体制の構築により、人、モノ、資本、情報などの経営資源の適正配分をめざします。

質の高い行政サービスを効率的に提供できるよう、簡素で効率的かつ機能的な組織を構築するとともに、職員の政策形成能力や職務遂行能力の向上などの人材育成を進め、あわせて電子自治体の構築により、事務の簡素化・効率化や窓口業務の情報化を図ります。

また、市民に開かれた市政を推進するため、個人のプライバシーを保護しつつ、市の保有する情報を公開します。

さらに、民間のノウハウの活用や外部活力の導入などにより、市民サービスの向上や経費の削減を進めるとともに、公共施設などの適正配置や有効活用、市有財産などの有効活用を図ります。

## (2) 行政運営の推進

電子自治体<sup>\*</sup>の推進や庁舎整備などにより、市民サービスの向上、情報管理・処理の適正化、経費削減や行政のスリム化などを図り、効率的な行政運営に努めます。

また、周辺自治体と各種の協議会などを設置し、分野別に広域連携による交流を進めるとともに、今後はさらに、相互の市民も含めた情報共有の環境づくりに取り組み、連携を検討する場や交流機会を広め、共同の広域連携を一層進めます。

## (3) 財政基盤の確立

地方分権時代にふさわしい自律的な財政運営を進めるため、産業振興による地域経済の活性化や定住促進施策などにより、税収増を図りつつ、その収納率の向上に努め、将来の歳入確保に結びつけます。

また、事務の見直しや予算執行の適正化、行政評価に基づく事業の選択と重点化、補助金の見直しなどの財政対策を進め、歳出構造の改革と歳出削減に努めます。

このようにして、健全な財政基盤の確立をめざします。

### ※電子自治体

高度に電子化された市民サービス・業務システムを、インターネットなどを利用してオンラインで市民に提供できる自治体という。オンラインによる申請などが可能になることにより、市民は時間・場所などの束縛を受けることなく、さまざまな申請を家庭にいながらに行うことができる。また、各自治体は、情報の電子化により効率的な業務の遂行が可能になり、より便利で質の高いサービスを市民に提供することが可能になる。

